

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 13年11月

### ～13年度末にかけて高水準の貿易赤字が続く見込み

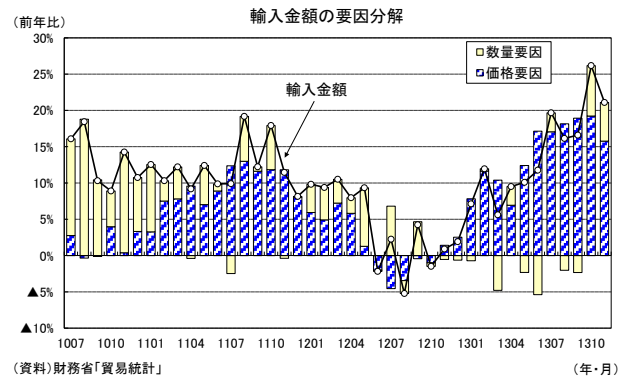
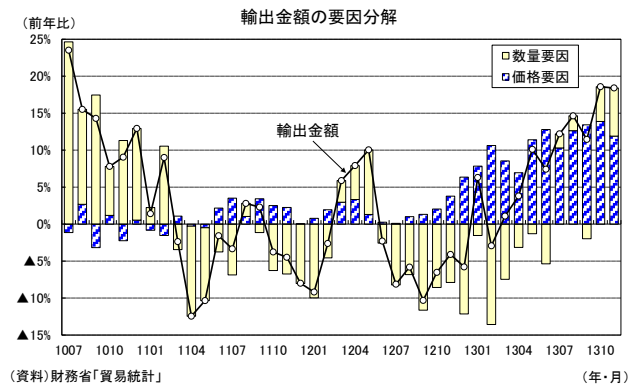
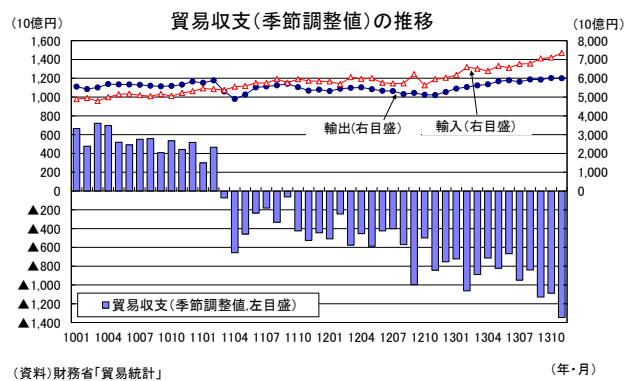
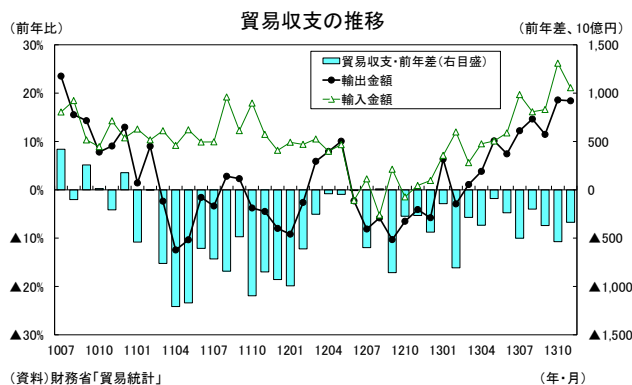
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 貿易赤字は拡大傾向が続く

財務省が12月18日に公表した貿易統計によると、13年11月の貿易収支は▲12,929億円と17ヵ月連続の赤字となり、赤字幅はほぼ事前の市場予想（QUICK集計：▲13,218億円、当社予想は▲14,184億円）通りとなった。円安の影響から輸出入ともに高い伸びとなったが、輸入が前年比21.1%（10月：同26.2%）と輸出の伸び（10月：前年比18.6%→11月：同18.4%）を上回ったため、貿易赤字は前年よりも拡大した。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比6.1%（10月：同4.4%）、輸出価格が前年比11.6%（10月：同13.6%）であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比5.0%（10月：同6.4%）、輸入価格が前年比15.4%（10月：同18.6%）であった。



季節調整値の貿易収支は▲13,463億円の赤字となり、10月の▲10,868億円から赤字幅が拡大し

た。輸出が前月比▲0.2%（10月：同1.4%）と2ヵ月ぶりに減少する一方、輸入が前月比3.5%（10月：同0.6%）の高い伸びとなった。四半期ベースの貿易赤字は13年4-6月期の▲8.8兆円（季節調整済・年率換算値）から7-9月期には▲11.7兆円へと拡大したが、10、11月の平均は▲14.6兆円と赤字幅がさらに拡大している。

先行きについては、輸出は持ち直すものの、消費税率引き上げ前の駆け込み需要を主因として輸入は高めの伸びが続くことが見込まれるため、13年度末にかけて高水準の貿易赤字が続く可能性が高い。

## 2. 外需が景気の牽引役となることは期待できず

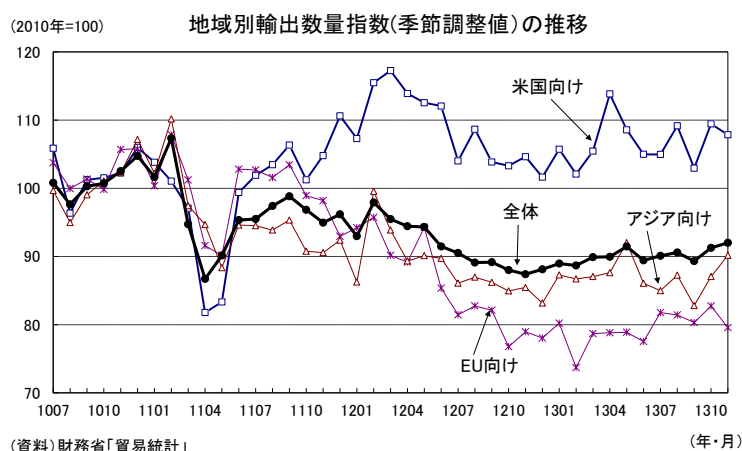
11月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比2.9%（10月：同5.3%）、EU向けが前年比0.4%（10月：同8.0%）、アジア向けが前年比5.9%（10月：同2.0%）となった。

季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比▲1.5%（10月：同6.3%）、EU向けが同▲3.8%（10月：同3.0%）、アジア向けが同3.6%（10月：同5.1%）、全体では同0.8%（10月：同2.2%）であった。

米国向け、EU向けの低下は前月の高め伸びの反動によるもので、10、11月の平均を7-9月期と比べると、米国向けが2.8%、EU向けが0.0%、アジア向けが4.2%、全体では1.8%高くなっている。輸出は全体として持ち直していると判断される。

一方、輸入数量指数（季節調整値）は前月比2.8%（10月：同0.6%）と堅調を維持しており、10、11月の平均は7-9月期平均よりも2.8%高くなっている。

7-9月期のGDP統計では、輸出が前期比▲0.6%となり、外需寄与度が前期比▲0.5%と3四半期ぶりに成長率の押し下げ要因となった。10-12月期は、輸出は増加に転じるものの、内需堅調を反映し輸入も増加を続けることから、現時点では外需寄与度は前期比でゼロ近傍になると予想している。引き続き外需が景気の牽引役となることは期待できないだろう。



なお、10月の経常収支は季節調整値で▲593億円と2ヵ月連続の赤字となった。（原数値では▲1,279億円と9ヵ月ぶりの赤字）。11月の貿易赤字（季節調整値）は前月よりも拡大したが、訪日外客数の増加に伴うサービス収支の改善、円安による所得収支黒字の拡大が見込まれることから、現時点では11月の経常収支（季節調整値）は低水準ながらも黒字に戻ると予想している。ただし、原数値では2ヵ月連続の赤字となる可能性が高いだろう。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。